

浅羽野中だより 「胡桃の木」

No.10

学校教育目標 「学び 鍛え 思いやる」

～「浅中力」と身につけた生徒の育成～

令和5年7月18日 坂戸市立浅羽野中学校 校長 小林 正明

あと2日で1学期の終業式を迎えます。梅雨は明けていませんが、かなり気温が高い日が続いています。熱中症が非常に心配です。猛暑日など気温がとても高い日は、グラウンド・体育館・武道場での部活動を中止にする、休日の部活動で気温の高い日には塩分チャージタブレットを配る、昇降口前にミストシャワーファンを設置するなど、学校でも熱中症予防対策を講じています。ご家庭でもお気を付けください。

〔2年生 命の授業〕

13日の5、6時間目に1クラスずつ、2年生が命の授業を行いました。具体的には、心肺蘇生とAEDで、人の命を救うための方法を学ぶ授業でした。当日は、埼玉医科大学総合医療センター



などから7名の救急救命士の方々に、生徒の指導のため来校していただきました。また坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部から10名、坂戸市防災安全課から3名、坂戸市民健康センターから2名の方々が見学に来るなど、大勢の大人に囲まれながらの授業となりました。心肺蘇生訓練用人形が20体、AEDが20台用意され、生徒は2人1組になって講習を受けました。こんなに多くの機材を一度に用意して

いただけたことに、驚くと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。訓練用人形を使っての胸骨圧迫では、2分間やり続けるという課題を与えられ、やり終えた後はぐったりしている生徒がほとんどでしたが、胸骨圧迫の大切さと大変さを体で感じてくれたようです。また、AEDの操作では、AEDを初めて扱った生徒ばかりで、訓練用人形相手でしたがみんな真剣な面持ちで取り組んでいました。生徒たちは本当に貴重な体験をすることが出来ました。



心臓突然死で亡くなる人は年間で7万人以上、日本のどこかで1日約200人の方々が突然死で亡くなっているそうです。しかし心肺蘇生を行ったりAEDを使用したりすれば、かなりの人たちの命を救うことが出来ます。「こういう場面には出くわしたくないけど、もしそうなった時のために、今日学んだことを生かせるようにしていきたいです。」と授業の感想で述べた生徒がいました。まさにその通りです。まさかの時には、命を救う立場の人間になってほしいと思います。

「ネットリンチ」の実態

埼玉県教育委員会

インターネット上への投稿をきっかけに、投稿者の個人情報さらされたり、誹謗中傷が集まったりすることを「ネットリンチ」と言います。インターネット上への不適切な投稿が社会問題となっている一方で、その投稿者への「ネットリンチ」も深刻化しています。

「ネットリンチ」の主なきっかけは不適切な投稿

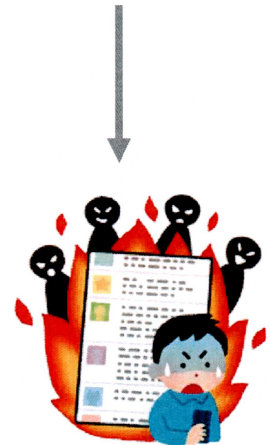
「ネットリンチ」の標的になりやすいのは、インターネット上で不適切な投稿をした投稿者です。

公共の場で迷惑行為やいたずら行為をしている様子などをインターネット上に投稿すると、批判的なコメントが集まり、投稿が拡散されます。これがいわゆる「炎上」という状態です。

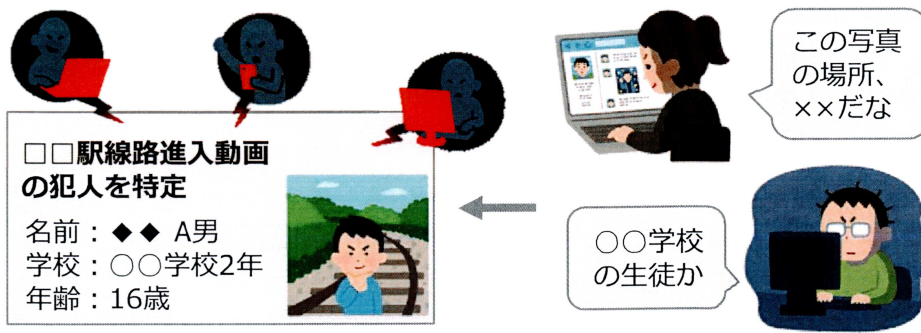
投稿が「炎上」すると、投稿者の個人特定がはじまります。インターネット上には、不適切な行為をした人をこらしめようという正義感や自分が楽しむことを目的に、不適切な投稿をした投稿者の個人情報を探る人物がたくさんいます。そのような人物から個人情報を特定されると、問題の投稿と一緒に個人情報を拡散されたり、誹謗中傷を含む書き込みをされたり、ありもしないデマや噂を流されたりといった「ネットリンチ」が発生します。



「不適切な投稿」



「炎上」



「ネットリンチ」

「個人特定」



- ◆「ネットリンチ」の標的になるのは、投稿者だけとは限りません。投稿者の家族の氏名や勤務地などの個人情報まで拡散されたというケースもあります。
- ◆不適切な投稿以外にも、インターネット上でのささいな発言がきっかけとなって「ネットリンチ」の被害者になってしまうこともあります。
- ◆居住地域や年齢などが一致したことなどから、まったく無関係の事件の加害者だと誤解され、「ネットリンチ」の標的になってしまったというケースも過去にあったので、インターネット上に個人に関する情報は載せないようにしましょう。



インターネットを使っていれば、誰でも「ネットリンチ」の標的になる可能性があります。インターネット上に不適切な投稿をしないことはもちろん、他の利用者を不快にするような発言は控えるように心がけましょう。